



8月8日、「反ワクチン訴訟 記者会見・提訴報告集会」を開催しました

反ワクチン運動を報道しない“マスゴミ”と闘います！

私は、ワクチン接種中止やPCR検査中止などを求めて、7月30日、国を相手取って「反ワクチン訴訟」（武漢ウイルスワクチン特例承認取消等請求事件）を提起した弁護団の主任弁護士として、「反ワクチン運動」を展開しています。

この訴訟をめぐり、今月8日、神戸市内で原告団・弁護団合同の「記者会見・提訴報告集会」を開催しました。当日はライブ配信も行いましたが、私たちの話を直接聞きたい方々が数多く集まり、会場が満員になるほど盛況でした。

冒頭、弁護団の南出喜久治弁護士が、複数の新聞記者がいる前で、マスコミ各社がこの訴訟を一切報道しない姿勢に触れて「国民の知る権利を“妨害する”報道機関は“マスゴミ”だ！“粗大ゴミ”だ！」「報道する気がないのなら退席して、立ち見客に席を譲ってほしい」と抗議し、一般参加者の喝采を浴びました。

私からは、今後の訴訟進行の見通しや、反ワクチン運動基金に対する寄付の状況のほか、ワクチンを打とうとする家族をどのように説得すればよいかというご相談を数多く受けていることを紹介しました。現在、弊所HPに「大切な人をワクチン被害から守るための『説得の仕方』」と題する文書を公開しましたので、ぜひ一読ください。

当日の様子は、ニコニコ動画にてご視聴いただけます (<https://www.nicovideo.jp/watch/sm39148596>)。

弁護団から相当の抗議を受けた新聞社ですが、本日まで反ワクチン訴訟について全く報道していません。“マスゴミ”は、ワクチンの安全性やワクチン被害に関する情報を提供する気がありませんから、私たちは自衛手段として、ワクチンのデメリットに関する情報を自ら取得した上で、接種するかどうかを慎重に判断する必要があります。

次回の集会は、8月22日午後1時、大阪市内での開催を予定しています。詳細は、弊所SNSでお知らせします。

また、「反ワクチン訴訟」にご賛同いただける方は、私が代表を務める「反ワクチン運動基金」への寄付をお願いいたします。詳細は弊所HPの「反ワクチン運動専用ページ」(<https://kihara-law.jp/vaccine/>)をご覧ください。

重症化防止の治療薬が開発された今、PCRもマスクもワクチンも不要です

全ての感染予防対策を即刻中止すべきです！

厚労相は、重症化リスク低減の抗体カクテル療法治療薬「ロナプリーブ」（中外製薬）を7月19日に特例承認し、菅総理は同月27日、記者団に対し「ロナプリーブを新たな治療薬を徹底して使用していく」と述べて、政府の方針として決定されたことを強調しました。

そうすると、全国民に対するワクチン接種によって、死亡例を含む多くの有害事象を生じさせるよりも、軽症者を増悪させないために感染者のみに限定して治療薬を投薬することの方が、国民全体の生命、健康等を守るために必要であることが明らかですから、ワクチン接種はもはや有害無益なものとなったのではないのでしょうか。

換言すれば、国は「感染予防政策から治療中心政策へ」転換すべき義務を負ったのです。この政策転換により、PCR検査、マスク、ワクチン接種、接種証明書（ワクチンパスポート）及び各種の自粛措置は全て即刻中止すべきであり、これによって、膨大な国費負担を回避することができるのです。

以上の内容は、今月6日付けで原告団が裁判所に提出した「準備書面（1）」で詳細に主張しております。弊所HPの「反ワクチン運動専用ページ」(<https://kihara-law.jp/vaccine/>)からご覧いただけます。

接種をお考えのみなさまへ

国が政策転換しつつある今、接種を少しお待ちいただけませんか？

弁護士 木原功仁 37歳

携帯 080-4675-9313 E-mail info@kihara-law.jp
FACEBOOK <https://www.facebook.com/kiharakuniyalawfirm>

Twitter <https://twitter.com/kiharakuniya>

経歴 神戸市立御影北小学校、滝川中・高等学校、京都大学工学部物理工学科、大阪市立大学法科大学院各卒業、平成27年弁護士登録（東京弁護士会）、令和2年大阪弁護士会に登録換え

神戸市内を含む関西地方で、ピラ撒き・ポスティングのボランティアを募集しています！詳しくは弊所までお問合せください。

